

補聴器助成申請件数は当初予定の2.7倍の277件にも

上越市の軽・中度難聴者補聴器助成事業については、当初予定していた100件の申請件数の2.7倍、277件にもなる見通し

となり、今回の一般会計補正予算に195万円の追加が計上されました。



4日の厚生常任委員会審査では、「当初よりも見込みが増えているがどのように積算したか」「軽度の難聴はどれくらいの程度か」「周知はどのようにするか」などの質問が出ました。担当課長は、「これまで予算の流用で対応してきた。この後、12月後半から3月までに63件見込んでいる」「軽度はささやき声が聞こえない程度だ」「市民に行き渡るよう、これからもホームページや広報ですすめていく」と答えていました。

この事業は、関係する市民のみなさんと力を合わせ、私が2度にわたる一般質問を展開する中で実現した事業です。この事業に対する期待が大きいのはうれしいですね。

妙高市と比べても遜色のない減収補填を

上越市は、今回の補正予算で「今夏の少雨と高温の影響で農業収入が減少した農業者等に対し、農業経営継続のために生産資材の購入経費の一部を支援」する事業の経費、2億2870万円を計上しました。

支援の具体的な内容は、令和4年分の確定申告書に計上した生産資材費の合計額の18%に相当する額の給付（上限額20万円）となっています。ただし、令和5年度、6年度に収入保険や農業共済制度に未加入の場合は支援金の算定額の2分の1を給付するとしています。

5日の農政建設常任委員会では、「この支援金でやっていけるのか」「隣の妙高市と比較して遜色ないことを示してほしい」などの声が相次ぎました。これに対し市は、「妙高市は中山間地が多い。中山間地特有の小さなところへの支援という点では遜色ない」などと答弁しました。しかし、この答弁には具体的な数値が示されなかったこともあって、所属委員でない私も「もっと具体的に説明を」と訴えました。



【ネリネ】南アフリカ原産のヒガンバナ科の園芸種です。別名はダイヤモンドリリー。球根は直径3~5㌢。冬の終わりに葉が出るそうです。草丈は30㌢くらい。花はいまです。直径4㌢ほどの漏斗状のピンクの花を咲かせています。花言葉は「華やか」「かわいい」。写真は12月5日、大潟区にて撮影しました。

下水道使用料減免制度創設へ



市は、本年2月に改定した上越市下水道事業経営戦略に基づき、公共下水道整備を見直した区域において、下水道管理者である市に替わって下水道整備を行う人および団体に対し、下水道整備に要する調査設計及び工事費の75%相当額を下水道使用料から減免する制度を来年4月1日からスタートさせる予定です。5日、議会に報告しました。

「戦争はごめんだ！」集会に80人

市民連合・上越主催の「戦争はごめんだ！ 軍拡と改憲に反対する市民の集い」が3日、高田の雁木通りプラザで開催されました。この集いには会場いっぱいの約80人が参加し、「戦争で平和がもたらされることはない」「憲法9条を守れ」などの思いを語り、集会アピールを決議しました。集会後、デモ行進もしました。



はしづめ法一の活動レポート

No.2137 2023.12.10

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七八四回

喪中はがき

まさか二年続けて喪中はがきを出すことになるとは思ってもみませんでした。昨年一〇月の母に続いて今年の一〇月に大湯区の弟が亡くなったからです。

あつという間に四九日法要を迎え、一区切りしたところで、年末年始の挨拶を失礼します、という喪中はがきを出す準備にとりかかりました。

昨年は喪中でしたので年賀状はほとんど来ていません。今回も昨年と同じように一昨年の正月に届いた年賀はがき、その前にわが家に来た喪中はがきをもとに宛名書きをすることにしました。

今回は忙しかったので、長女に宛名書きを頼んだのですが、その前の段階の「誰に出すか」の準備は私がしました。

その作業をする中で母に宛てた弟の年賀状が出てきました。弟が生前書いた最後の年賀状となったものです。一度は見ているはずですが、見た途端、ぐっしょり泣きました。

年賀状には糸魚川市能生の浜徳合地域の浜茶屋の風景が薄くプリントされていて、その上に筆を使って朱色で文字が書かれています。右側には太い文字で「賀春」、その左側には、これも朱色で

いつも「エツさん」

ありがとうございます

ありがとうございます

ありがとうございます

ありがとうございます

ありがとうございます

本当に

ありがと

と書いてありました。弟は最後の最後の年賀状でも母への感謝を伝えていたのです。母はこの年賀状を居間の「タツ」のそばの電動椅子に座って読んだと思うのですが、どんなにうれしかったことでしょうか。

さて、宛名書きが終わった喪中欠礼はがきは一一月末から一二月初旬に配達されま

した。喪中はがきを受け取った反応はほとんど伝わってこないのですが、先日の朝、九時半過ぎのこと、わが家と遠い親戚関係にある東京都内在住のTさんから電話が入りました。

わが家が尾神岳のふもとから現在の代石(たいし)に移って四一年経過しているのですが、Tさんの頭の中では、わが家は未だに尾神にあるようです。

「尾神んちだろかいね。喪中はがきもらっただけど、勇さんは六七歳で亡くなったのかね。早すぎるね。オシが知っている人だろうか」

「さて、どうだろうね。原之町あたりで会ったことはあるかもしらんけど、尾神のおらちに来てくんたところはまだ生まんてねかっただろうし……。そうそう、おらちのオシは東田中の田村先生に習ってたし、どこかで会ってるかもしれないね」

「ちよっとわからんな、オシは……。小さい頃、尾神んちに行きたくて、行きたくてね、何度も世話になったもんだわね。尾神んちで夜、切なくなつて泣いていると、トナリに嫁に行ったシカちゃんね、『泣かんでいいがだよ、明日になればスイカも大きくなっていくよ』そう言つて声をかけてくんたもんだ。音治郎さんからは馬にものせてもらった」

「そののかね、世話ならまいったね」

Tさんからの電話は今回も私の携帯にかかってきました。母と同じ年の生まれですから、いま満九歳だと思えます。話す声はすっかりしているし、耳も大丈夫の様です。どうあれ、喪中はがきを見て、わが家のことを思い出してくださったのはとてもうれしいことでした。

今年、わが家が出した喪中はがきは百枚を超えました。悲しい知らせではありませんが、はがきを契機に故人にかかわることを思い出していただけならうれしい。

ニュースフラッシュ

筒方新そばまつりに初めて参加



板倉区筒方(どうがた)の新そばを2日、初めて食べてきました。美味しかったです。会場は1階の食券売り場から2階にある食堂まで長い列ができていました。食堂スタッフの方は地元の方なんでしょうか、親しみの持てる人たちでした。

案内係の人が話す言葉がユーモアたっぷり、面白かったです。長い列のところへ来てはお客様を笑わせていました。



第12回じょうしんえつ絵画展、お世話になっているお寺の子どもさんの絵や図書館を描いたきめ細かい絵に注目しました。



【頑張る三八市の人たち】今回は炭焼きキッチンカーの「サルタナ」さんです。いつも明るく対応してくださる素敵なお店屋さんです。ぜひお出かけください!

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月29日(水)	12月6日(水)
上越南消防署	0.050	0.053
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.050	0.057
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.070	0.070
東頸消防署	0.047	0.050
名立分遣所	0.053	0.053
高士分遣所	0.053	0.047